

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果 課題の改善に向けた取組の重点

1. 調査結果を踏まえた今後の取組について	1
2. 「課題の改善に向けた取組の重点」の活用	2
3. 分析資料の活用方法（S-P表・学力層分析）	3
4. 問題別調査結果【小学校 国語】	7
5. 問題別調査結果【小学校 算数】	17
6. 問題別調査結果【中学校 国語】	23
7. 問題別調査結果【中学校 数学】	25

令和3年9月10日

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

調査結果を踏まえた今後の取組について

- 本県では、「第Ⅱ期 学ぶ力向上滋賀プラン」により、「読み解く力」の育成に重点をおいて、「学びを実感できる授業づくり」「学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり」「子どものために一丸となって取り組む学校づくり」の3つの視点から学ぶ力向上の取組を推進しています。
- 令和3年度の全国学力・学習状況調査の結果が提供されました。それぞれの学校において取組の成果や課題はあると思いますが、子どもたちの「分かった」、「できた」という喜びや達成感を大切に、できなかったことが1つでもできるよう取り組むことは非常に重要だと考えます。
- 滋賀の子どもたちが楽しく学習を進めるために、「私たちに何ができるか」、「何をすればよいのか」についてみんなで一緒に考え、子どもたちの学びを着実に高めていきましょう。

調査結果を踏まえた2学期からの取組

- 「課題の改善に向けた取組の重点」にもとづいた各校の具体的な取組
本冊子では、分析資料の活用方法や、子どもたちのつまずきに着目した、教科ごとの課題の改善に向けた取組をまとめています。本冊子を参考に、自校の調査結果を分析して課題を明らかにした上で、2学期以降の授業等において、校内の全ての教職員が実践する具体的な取組について検討していただくようお願いします。
 - ・分析資料を活用した課題の焦点化と取組の明確化
「解答状況整理表（S-P表）」や「学力層（四分位）分析グラフ」等の分析資料を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の定着等を含めて各学校の課題を焦点化します。その上で、「重点的に指導すべき点」を明らかにし、教職員全体の共通理解を図ります。
 - ・対象学年に限らない系統性を意識した指導の充実
明らかになった「重点的に指導すべき点」を踏まえて、本冊子でまとめている教科ごとの取組や調査の関連資料等を参考に、調査対象学年に限らない系統性を意識した指導を進めます。
 - ・「学びの基礎チャレンジ」や「学びのアンケート」を活用した検証・改善
「学びの基礎チャレンジ」や「学びのアンケート」において、教科ごとの課題の改善に向けた取組に関連した問題・質問を出題します。その結果を踏まえて、自校の取組を評価するとともに、子ども一人ひとりの学習状況を把握し、課題解決に向けた取組を継続的に行います。

今後特に継続して行う取組

- 「まとめ」や「適用問題」、「振り返り」の充実
学習内容の定着や子ども一人ひとりが学びの成果を実感し、学んだことや意欲、問題意識等が、家庭学習や次の授業につなげられるよう、授業の時間内に、しっかりと「まとめ」や「適用問題」、「振り返り」の時間を確保し、それらの質的な改善に取り組みましょう。
- 各学校の取組の見直し
これまでの各学校の取組について改めて話し合い、課題の解決に向けて共通実践していきましょう。
(例) 朝読書 100文字作文 新聞活用 ドリル学習 家庭学習の充実など

※ 今後も分析の仕方、具体的な取組例等をお示しし、各学校の取組を支援していく予定です。

「課題の改善に向けた取組の重点」の活用

校内の部会(学力向上、研究、教科等)等を活用し、分析を進めます。

① 分析資料等を活用し、課題を焦点化する。 P.3~6参照

・「調査結果概況」「問題別調査結果」だけでなく、S-P 表や学力層(四分位)分析グラフ等の分析資料を活用し、学校として大まかな課題ではなく、「重点的に指導すべきと考えられる設問」を絞りこみ、課題をできるだけ焦点化します。
 ・全体の課題だけでなく、個々の学びの状況に応じた「次の一步!問題」を見つける。

② 「重点的に指導すべき点」を明らかにする。

・焦点化した課題について、本冊子や調査問題の分析・解説資料・報告書等を活用して、「この設問を解くためには、どのような力が必要か」「その力を付けるためには、どのような指導が適切か」等を考え、「重点的に指導すべき点」を明らかにします。
 ・平均正答率だけでなく、解答類型等も参考にしながら、誤答の要因も分析します。

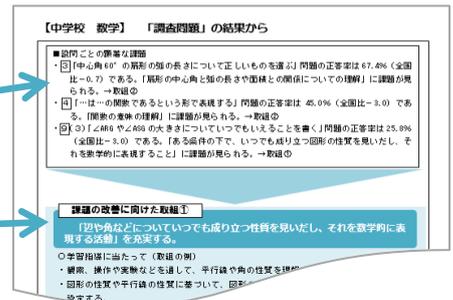
③ 2学期に全教職員で取り組む具体的な内容を検討し、実践する。

・明らかになった「重点的に指導すべき点」を基に、全教職員が各自の授業実践で取り組むことを出し合いながら、協議をします。学校や学年で統一して取り組む内容は、できるだけ焦点化・具体化を図り、全職員が日常的に実践できるようにします。
 ・対象の学年・教科だけでなく、小学校では、低学年・中学年・高学年の系統性を意識し、中学校では、全ての教科の指導についても検討し、組織的な取組を進めます。

各教科のページの見方

今回の調査で顕著な課題が見られた問題を、多く見られたつまずき例やその要因とともに掲載しています。

課題に対応した「課題の改善に向けた取組」の内容とそれに関わる指導ポイントや取組例を示しています。調査問題の対象学年の指導だけでなく、課題に関わる他学年の指導についても記載しています。



関連資料 (県教育委員会作成)

調査結果の概要
 本県の調査結果の概要(成果・課題)をまとめています。



調査問題の分析
 「読み解く力」に関連する問題等について分析しています。



・ガッテン!!プリント
 ・「読み解く力」対応
 学習プリント
 課題の改善につながる補充学習プリントです。
 ※ダウンロードには、各学校園に配布されているIDとパスワードが必要です。



関連資料 (文部科学省作成)

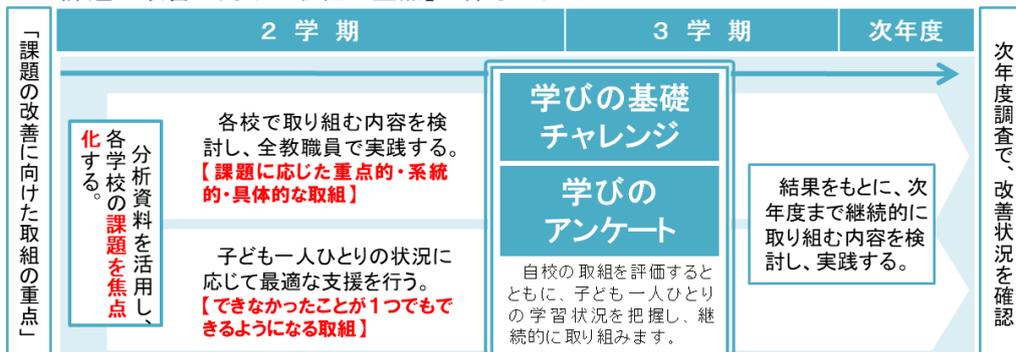
国立教育政策研究所作成の以下の資料も参考してください。
 ◆ 調査問題・正答例・解説資料
 ◆ 報告書・調査結果資料
 ◆ 授業アイデア例 (9月下旬掲載予定)



④ 取組を定期的に検証・改善する。

・短時間でも、取組について各自が振り返る時間を設定し、成果や課題、効果を実感した取組、実践上の悩み等を共有し、明日からの実践につなげます。

「課題の改善に向けた取組の重点」に係るスケジュール



共通の取組を振り返るシートを使って、毎週水曜日の放課後に学年間で5分間の交流をしています。



学校／学級別解答状況整理表(S-P表)の見方について

左から右へ、全国正答率の高い順に問題番号を記載

問題番号	問題										正答数	正答率					
	2 (1)	3 (2)	2 (3)	1 (2)	4 (1)	1 (2)	4 (3)	3 (2)	2 (2)	1 (3)			5 (1)	3 (3)	5 (2)		
全国(公立)正答率	89.0	76.7	78.7	37.2	86.2	54.3	54.0	41.8	41.0	40.5	35.6	34.8	14.7	12.4	8.2		
正答人数の割合	90.0	88.0	82.0	52.0	82.0	34.0	52.0	22.0	32.0	32.0	30.0	28.0	28.0	17.0	4.0		
正答人数	20	17	14	10	14	10	14	5	8	8	7	7	7	3	1		
学年	付記欄																
組	氏名記入順																
3 1 068202	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	1	3	8	13	62.0
3 1 068210	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	1	1	6	8	13	62.0
3 1 068218	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	9	3	3	7	11	75.8	
3 1 068216	1	1	1	1	1	1	1	7	1	1	8	8	7	3	10	71.4	
3 1 068206	1	1	1	1	1	1	1	7	1	1	0	1	7	8	10	71.4	
3 1 068205	1	1	1	1	1	1	1	7	2	1	1	3	1	7	8	10	71.4
3 1 068238	1	1	1	1	1	1	1	7	1	1	8	9	1	7	7	9	64.3
3 1 068204	1	1	1	4	4	1	1	8	1	1	8	3	1	2	7	8	64.3
3 1 068208	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	8	8	8	8	9	64.3	
3 1 068213	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8	6	6	8	10	7	50.0
3 1 068227	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8	8	8	8	10	7	50.0
3 1 068203	3	1	1	1	1	1	1	6	7	7	8	8	8	2	9	7	50.0
3 1 068226	1	1	1	1	1	1	1	6	7	7	8	8	1	10	6	42.8	
3 1 068201	1	1	1	1	1	1	1	6	7	7	8	8	1	10	6	42.8	
3 1 068217	1	1	1	1	1	1	1	5	6	6	6	6	0	8	5	35.7	
3 1 068220	1	1	1	4	4	1	1	5	6	6	6	6	0	8	5	35.7	
3 1 068224	1	0	0	4	4	1	1	5	6	6	6	6	0	8	5	35.7	
3 1 068200	1	0	0	4	4	1	1	5	6	6	6	6	0	8	5	35.7	
3 1 068230	1	0	0	2	4	1	1	5	6	6	6	6	0	8	5	35.7	
3 1 068211	1	1	1	1	1	1	1	5	6	6	6	6	0	8	5	35.7	
3 1 068214	1	1	1	1	1	1	1	5	6	6	6	6	0	8	5	35.7	
3 1 068218	1	1	1	1	1	1	1	5	6	6	6	6	0	8	5	35.7	
3 1 068219	1	1	1	1	1	1	1	5	6	6	6	6	0	8	5	35.7	
3 1 068225	1	1	1	1	1	1	1	5	6	6	6	6	0	8	5	35.7	
3 1 068208	1	1	1	1	1	1	1	5	6	6	6	6	0	8	5	35.7	
合計	正答数	13	13	13	11	10	14	5	8	8	7	7	7	3	1	1	1
合計	正答率	62.0	62.0	62.0	62.0	62.0	62.0	62.0	62.0	62.0	62.0	62.0	62.0	62.0	62.0	62.0	62.0

赤色

P曲線：
問題ごとに、上から数えて当該学校／学級の正答人数の数の数にわたる所を結んだ線
例) 該当設問の正答人数が「9名」なので、上から9人目のところに縦線が引かれる

S曲線(青)より左側の誤答(黄色セル)
→ 当該児童生徒にとって比較的解答が容易だったと考えられる設問(不注意による誤答や比較的克服が容易なものと想定される設問)

S曲線(青)より右側の誤答(橙色セル)
→ 当該児童生徒が理解していない可能性が高い設問(一人ひとりの児童生徒に対し、見直し・復習などの指導を行うことが有効と考えられる設問)

全国正答率
※小数点第1位を四捨五入して表示

青色

S曲線：
児童生徒ごとに、左から数えて当該児童生徒の正答数の数にあたる所を結んだ線
例) 当該児童生徒の正答数が「4問」なので、左から4目目のところに縦線が引かれる

当該教科の全国正答率50%以上問題のうち、正答数が2分の1以下だった児童生徒の人数及びその割合(%)

高正答率分析対象	割合
人数	18.1
	5.1
	5.7

<> 内は都道府県平均との差
() 内は全国(公立)平均との差

上から下へ、正答数の多い順に児童生徒を記載

※数字は解答類型(“0”は無解答)
※色付きセルは誤答(無解答含む)
※線が重なった場合は、以下の順で優先して表示される
縦線：青線>赤線>赤点線
横線：赤線>赤点線>青線

分析資料の活用方法【学力層（四分位）分析グラフ】

「学力層（四分位）分析グラフ」の概要

児童生徒を正答数の順に並べ替え、4等分したときの3つの区切りの値が四分位数です。提供された全国の四分位数を基に、児童生徒を4つの学力層（A層～D層）に分けたとき、各学力層の児童生徒数の割合を示したものが「学力層（四分位）分析グラフ」です。

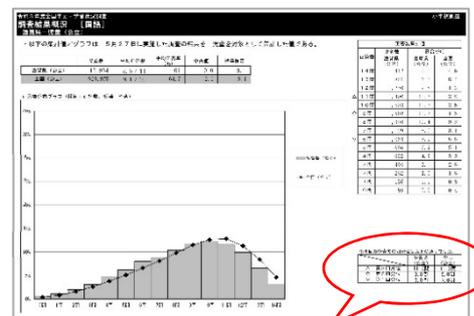
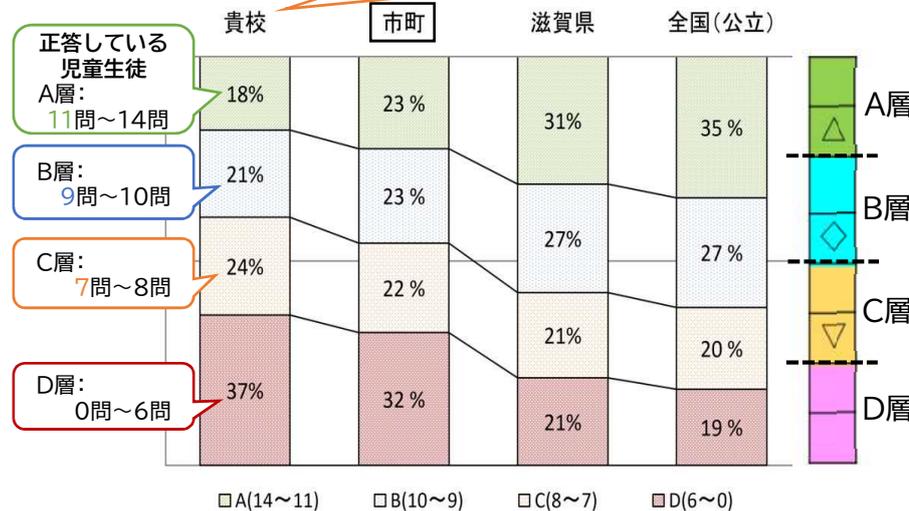
これを活用することにより、集団の現状を客観的に捉え、習熟にあった授業のねらいが焦点化され、手立てを具体化することができます。また、D層（学力低位層）に手だてを講じるだけでよいのかどうか等、習熟度別少人数指導や各学力層の実態に応じた教材・教具の一層の充実を図ることが可能になります。

「学力層（四分位）分析グラフ」等の見方

文部科学省からの提供資料 (例:中学校国語)

例：中学校国語

各集団のグラフ
全国・県・市町・学校ごとの各層の
児童生徒数の割合を示しています。



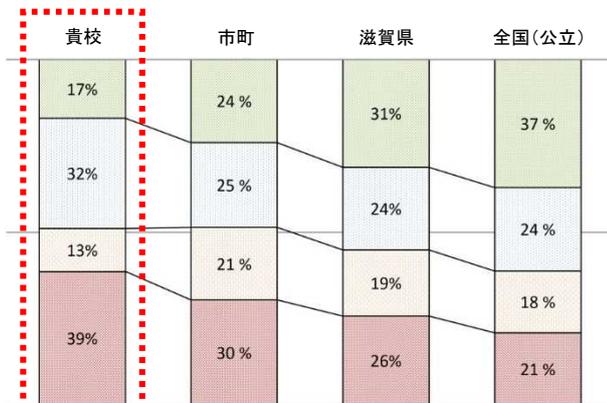
※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	滋賀県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	11.0問	11.0問
◇ 第2四分位	9.0問	9.0問
▽ 第1四分位	6.0問	7.0問

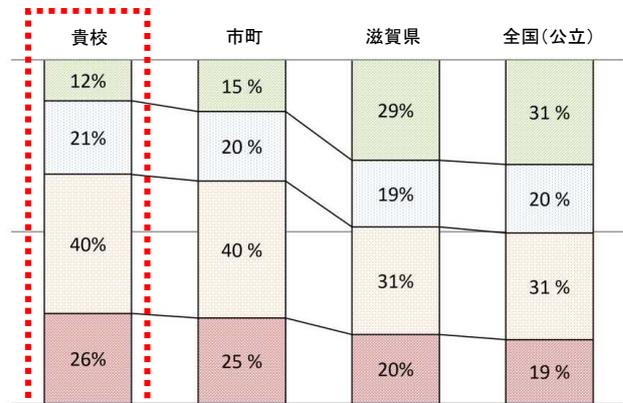
全国の四分位数に基づいて
児童生徒を4つの層に分ける。

子どもたち一人ひとりの確かな学力を育むための具体的な活用方法

【例1】B層とD層の割合が大きい場合



【例2】C層の割合が大きい場合



習熟度別指導の工夫

算数・数学の学習で、習熟の程度の違いを踏まえた学習集団を編成し、D層の子どもがC層に、B層の子どもがA層にステップアップできるよう、学習集団に適した指導を行います。また、習熟の程度に合わせた家庭学習の工夫も併せて行います。

「まとめ・振り返り」や適用問題の徹底

C層の子どもに焦点を当てた指導を行うことで、C層の子どもがB層にステップアップできるよう支援します。例えば、毎時間の「まとめ・振り返り」を徹底したり、算数・数学の学習で適用問題を必ず行ったりすることで、学習内容の定着を図ることが考えられます。

「次の一步！問題」を見つけるための具体的な方法 — 「学力層（四分位）分析グラフ」と「S-P表」を併せて活用する分析例—

- ① 「学力層（四分位）分析グラフ」を用いて、着目する学力層の児童生徒を確認する。
※割合の大きい層（25%以上）に着目して、その層のステップアップを目指す。
- ② 「S-P表」を活用し、着目する学力層の児童生徒の「次の一步！問題」を見つける。

① 「学力層（四分位）分析グラフ」を用いて、着目する学力層の児童生徒を確認する。



□ 4~11 □ B(10~9) □ C(8~7) □ D(6~0)

D層(37%)の児童生徒に着目して、次の層(C層)へのステップアップを目指す。

D層の児童生徒の正答数は0~6問です。そこで、S-P表を活用して、正答数が0~6問の児童生徒を確認します。

D層の児童生徒（正答数0~6問）一人ひとりのS曲線（青）より左側の誤答（黄色セル）やS曲線付近の誤答（橙色セル）が「次の一步！問題」となります。

② 「S-P表」を活用し、着目する学力層の児童生徒の「次の一步！問題」を見つける。

問題番号	領域等	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
1	A	90.9	90.5	82.2	74.2	73.8	73.4	73.3	64.6	55.1	49.5	33.6		100.0
2	D	92.0	92.0	76.0	84.0	88.0	86.0	88.0	64.0	64.0	48.0	24.0		100.0
3	D	23	23	19	21	18	15	22	16	16	12	6		100.0
4	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
5	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
6	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
7	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
8	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
9	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
10	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
11	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
12	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
13	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
14	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
15	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
16	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
17	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
18	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
19	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
20	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
21	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
22	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
23	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
24	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
25	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
26	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
27	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
28	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
29	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
30	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
31	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
32	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
33	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
34	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
35	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
36	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
37	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
38	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
39	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
40	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
41	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
42	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
43	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
44	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
45	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
46	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
47	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
48	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
49	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
50	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
51	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
52	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
53	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
54	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
55	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
56	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
57	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
58	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
59	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
60	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
61	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
62	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
63	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
64	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
65	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
66	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
67	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
68	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
69	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
70	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
71	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
72	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
73	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
74	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
75	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
76	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
77	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
78	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
79	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
80	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
81	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
82	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
83	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
84	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
85	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
86	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
87	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
88	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
89	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
90	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
91	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
92	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
93	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
94	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
95	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
96	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
97	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
98	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
99	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12
100	D	1	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4		12

黄色セルや橙色セルの問題が、該当児童生徒の「次の一步！問題」となる。

S曲線（青）付近の誤答（橙色セル）を確認する。

S曲線（青）より左側の誤答（黄色セル）を確認する。

正答数が0~6問の児童生徒を確認する。</

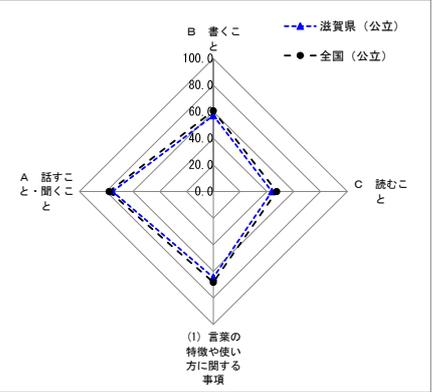
・以下の集計値/グラフは、5月27日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数		滋賀県(公立)	全国(公立)	対象児童数	滋賀県(公立)	全国(公立)
		220	18,857		12,934	993,975

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			滋賀県(公立)	全国(公立)	
全体					
		14	61	64.7	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	6	64.7	68.3
		(2) 情報の扱いに関する事項	0		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	75.3	77.8
		B 書くこと	2	57.1	60.7
	C 読むこと	3	43.7	47.2	
評価の観点	知識・技能	6	64.7	68.3	
	思考・判断・表現	8	58.9	62.1	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	8	68.7	71.7	
	短答式	3	67.4	70.6	
	記述式	3	36.0	40.2	

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
			(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	(2) 情報の扱いに関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項	思考力、判断力、表現力等			選択式	短答式	記述式	滋賀県(公立)	全国(公立)	滋賀県(公立)	全国(公立)	
						A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと								
1一	津田梅子の二つの業績を明確に伝えるために、【スピーチメモ】と【スピーチ】の練習で上野さんが話した構成の説明として適切なものを選択する	目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える				5・6イ							74.8	77.5	0.4	0.3
1二	津田梅子についての【スピーチ】の練習で、(資料②)と(資料③)を使った理由の説明として適切なものを選択する	資料を用いた目的を理解する				5・6ウ							71.8	74.9	0.6	0.4
1三	津田梅子についての【スピーチ】の練習の「……」の部分で話す内容として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、資料を使って話す				5・6ウ							79.5	81.0	0.6	0.4
2一	面ファスナーに関する【資料】の文章が、何について、どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する	文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する				5・6ア							75.9	77.6	0.5	0.4
2二	面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する	思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う				5・6オ							85.5	87.5	0.4	0.3
2三	面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける				5・6ウ							30.4	34.4	5.3	4.1
2四	面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する				3・4ウ							24.8	29.7	7.4	5.5
3一	丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する	自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える				5・6イ							61.4	64.8	2.3	2.1
3二	丸山さんの【文章の下書き】の「……」部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す	目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する				5・6ウ							52.9	56.6	11.6	9.6
3三(1)ア	丸山さんの【文章の下書き】の中の「……」部アを、漢字を使って書き直す(ころがっている)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う				5・6エ							76.0	78.3	9.4	8.8
3三(1)ウ	丸山さんの【文章の下書き】の中の「……」部ウを、漢字を使って書き直す(つみ重ね)		5・6エ										49.4	54.4	15.8	14.4
3三(1)エ	丸山さんの【文章の下書き】の中の「……」部エを、漢字を使って書き直す(げんいん)		5・6エ										76.9	79.0	7.1	6.6
3三(2)イ	丸山さんの【文章の下書き】の中の「……」部イで、〰〰部「残されています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係をつめる				3・4カ							59.2	67.0	4.0	3.8
3三(2)オ	丸山さんの【文章の下書き】の中の「……」部オで、〰〰部「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する	文の中における修飾と被修飾との関係をつめる				3・4カ							41.1	43.6	4.4	4.1

【小学校 国語】の調査問題の結果から

■設問ごとの顕著な課題

- ・ 2三の問題の正答率は、30.4%（全国比-4.0）である。目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることに課題が見られる。→取組①
- ・ 2四の問題の正答率は、24.8%（全国比-4.9）である。目的を意識して、中心となる語や文を見付けてまとめることに課題が見られる。→取組①

目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかをみる。

■つまずきの例
国際宇宙ステーションでの使われ方について書いているが、面ファスナーのよさを取り上げて書いている。(44.5%)

面ファスナーが宇宙でも使われていることについて、端的にまとめようとしていることを捉えることはできていると考えられる。しかし、国際宇宙ステーションの中での使われ方が書かれている部分を中心に読み、必要な情報を見付けて要約することができていないと考えられる。

短時間でヘッドレストカバーを交換する必要があります。そのため、一つ一つ取り外さなければならない。ヘッドレストカバーは、新しいものを取り替えるのに、面ファスナーの便利さが注目されています。新しい面ファスナーは、従来の面ファスナーよりも、留め残しを減らすことができます。また、従来の面ファスナーは、留め残しが多いため、面ファスナーの便利さが注目されています。また、従来の面ファスナーは、留め残しが多いため、面ファスナーの便利さが注目されています。また、従来の面ファスナーは、留め残しが多いため、面ファスナーの便利さが注目されています。

- ・ 3二の問題の正答率は、52.9%（全国比-3.7）である。目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られる。→取組④

- ・ 3三の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率は、64.7%（全国比-3.6）である。漢字の書き取り、主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係など、基本的な知識・技能の活用に課題が見られる。→取組②③

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。

文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる。

■つまずきの例
「績」「重」「罪」等 (31.1%)
無解答 (14.3%)

■つまずきの例
4「かたづけられずに」を選択している。(20.2%)

- 1 みんなが
- 2 使っていた
- 3 一輪車が
- 4 かたづけられずに

次のイの文について、……部「残されています」の主語として適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

イ 時には、みんなが使っていた一輪車が、かたづけられずに残されています。

文の中で正しく使うことに課題があると考えられる。音読みで同じ読み方をする「績」と解答している児童が見られた。

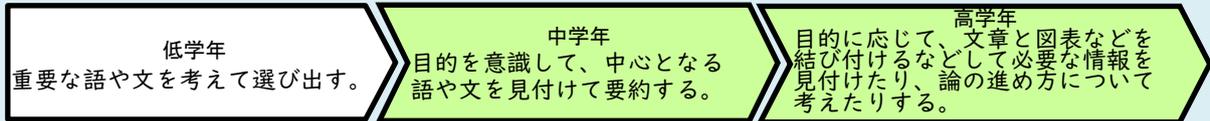
「かたづけられずに」は「残されています」の直前にあるため、主語と述語の関係となる言葉であると混同していると考えられる。

- ・ 児童質問紙（45）「国語の授業の内容はよく分かりますか」において、よく分かると答えた児童の割合は36.2%（H31年度本県比-2.2）である。→各取組

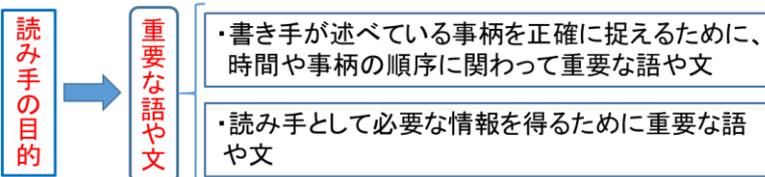
説明的な文章を読んで、文章全体の構成を捉え、目的に応じて中心となる語や文を見つけて要約したり、文章と図を結び付けるなどして必要な情報を見付けたりすることができるように指導する。

○学習指導に当たって

- ・課題改善のためには、[C 読むこと] の(1)の「精査・解釈」に関する指導事項のウについて、低学年から意識して指導していくことが大切である。



低学年：文章の内容の大体を捉えたことを基に、文章の中の**重要な語や文**を考えて**選び出す**。



考えて選び出すとは、重要だと考えられる語や文を文章の中から見付けることです。



「重要な語や文」は、読み手の目的によって決まります。

取組の例

- ・学習の前から関連図書を用意し、興味や意欲がもてるようにする。
- ・本や文章の挿絵や写真、本の種類や題名等を手がかりに内容を把握し、新しいことをもっと知りたいという意欲を大切にします。
- ・「何を」教科書教材や本から見付けるのか、視点を明確にする。

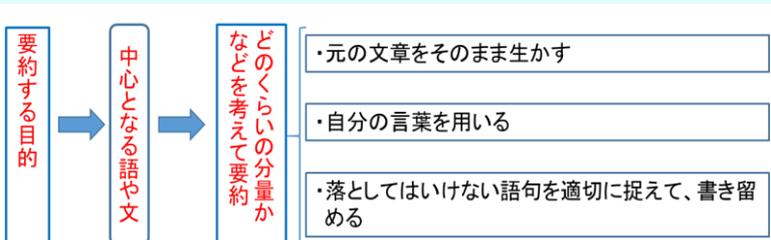


言語活動例

- ・事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。
- ・じゅんじょを考えて、分かりやすいせつめい書を書こう ・乗り物クイズを作ろう 等

中学年：目的を意識して、**中心となる語や文**を見付けて**要約**すること

⇒第1学年及び第2学年の「文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと」を受けて、中学年では「**中心となる語や文を見付け要約すること**」が示されている。



要約するとは、文章全体の内容を正確に把握した上で、元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりして、文章の内容を短くまとめることです。



[知識及び技能] (2) 情報の扱い方に関する事項の情報の整理に関する指導事項との関連を図り、指導の効果を高めることが考えられます。

取組の例

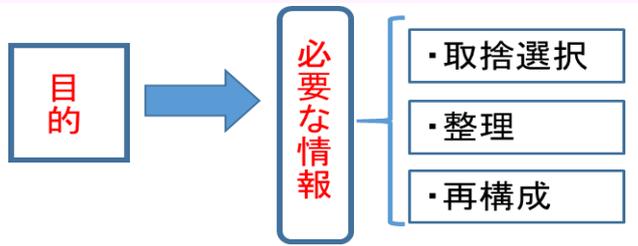
- ・目的によって中心となる語や文が変わってくるということを指導する。
- ・何のために、どのくらいの分量で要約するのか、なぜ要約が必要なのかなど、児童が目的や必要性を感じて取り組めるように、例えば、「興味をもったことを伝えるために要約する」という目的を位置付ける。

言語活動例

- ・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。
- ・自分が選んだ身近にある食べ物の秘密について紹介しよう 等

高学年：目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

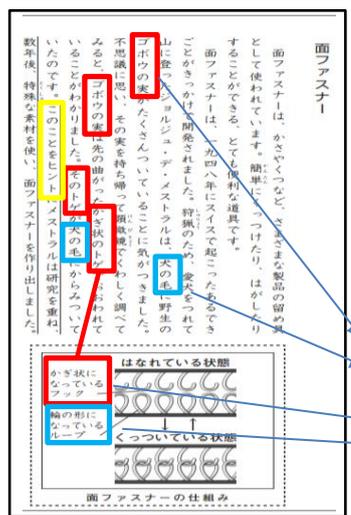
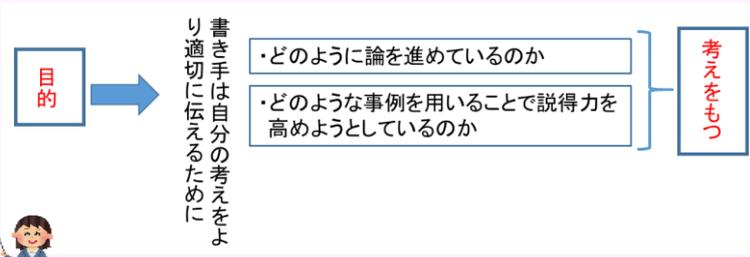
⇒要旨（書き手が文章で取り上げている内容の中心となる事柄や、書き手の考えの中心となる事柄）を手掛かりとして、必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。



目的に応じて、必要な情報を見付けるとは、書き手の述べたいことを知るために読む、自分の表現に生かすために読むなどの目的に応じて、文章の中から取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることです。

「必要な情報」は、目的に応じて変わるため、読む目的を明確にすることが重要です。

論の進め方について考えるとは、「事実と感想、意見などとの関係」や「文章全体の構成」などを基に、目的に応じて、書き手は自分の考えをより適切に伝えるために、どのように論を進めているのか、どのような理由や事例を用いることで説得力を高めようとしているのかなどについて考えをもつことです。



図表などが文章のどの部分と結び付くのかを考える。

文章と図表がどのような関係かを捉えながら、必要な情報を見付ける。

必要な情報を見付ける

ゴボウの実が犬の毛についていた

かぎ状のフックが輪の形をしたループに引っかかる

文章と図表などを結び付けるなどして読むとは、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにすることによって、必要な情報を見付けたり、論の進め方を捉えたりすることです。

論の進め方を捉える

取組の例

- ・情報を見付けるために、目次や検索を活用する、調べたい言葉が見つからない場合は、言葉を変えて見つける、意味の分からない言葉は必ず調べる、写真や図表のキャプションにも着目する等、具体的な指導を位置付ける。
- ・複数の文章を比較しながら読む。
- ・実態に基づいて、「読むこと」と「書くこと」の2つの領域を複合させることも効果的である。

言語活動例

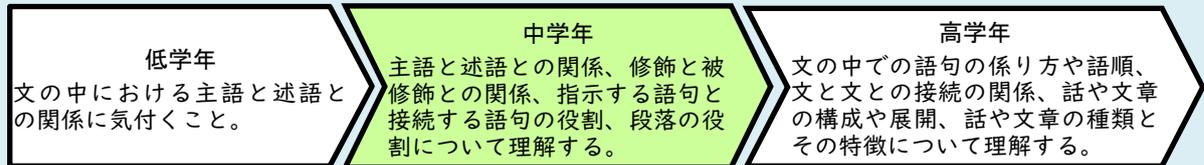
説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり、文章にまとめたりする活動。

- ・〇〇をプレゼンしよう
- ・市の魅力をPRしよう 等

「読むこと」や「書くこと」などの内容の学習との関連を図りながら、文の構成についての理解を深めることができるように指導する。

○学習指導に当たって

言葉の特徴や使い方に関する事項（1）カ 文や文章



低学年： 文の中における主語と述語との関係に気付くこと。

⇒ 話や文章に含まれる文の中で主語と述語が関係していることに気付かせること。

主語と述語との関係とは、主語と述語の適切な係り受けのことです。主語に対する述語が示されないといったことがないように、主語と述語を適切に対応させることが必要です。

主語は、下記の（例）のようにいつも文のはじめにあるとはかぎりません。

（例） 手紙をもらって、弟は、とてもよろこびました。



表現するときだけでなく、文章を読むときにも意識できるようにすることが大切です。

伝えたいことを相手に伝える上で重要であることに気付くように指導することが大切です。

「はしった。」「かいた。」など、述語のみの文を提示し、主語を補って多くの文を作る。

人物を表す「誰は(が)」だけでなく、事物や動物などを表す「何は(が)」に当たるものがあることを意識する。

主語と述語とが照応していない文を提示し、述語との関係を考えながら主語を補ったり、置き換えたりするなど、主語と述語を照応させるようにする。

主語

述語

中学年： 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。

主語と述語についての理解を深める。

修飾と被修飾との関係にも気を付けて文の構成を理解する。

指示する語句(こそあど言葉)を適切に使う。

接続する語句(つなぎ言葉)を適切に使う。

段落の役割を理解する。

文がどのように組み立てられているかを理解する。

文や文章をより簡潔に表現したり、文と文との内容のつながりなどを明瞭に表したりすることができる。

文と文章などが相互にどのように関わるかを明瞭にする。

形式段落と意味段落の意味を理解する。

実際の文や文章の中でどのように機能しているかということに、児童の意識が向くように指導をすることが大切です。



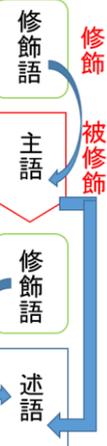
主述が整った複数の文を提示する。

述語を

- ・ものの名まえを表す語句(「何だ」)
- ・動きを表す語句(「どうした」)
- ・様子を表す語句(「どんなだ」)

の三つに類別する。

様子を表す語句の中には、語尾が「～だ」(形容動詞)だけでなく、「～(し)い」(形容詞)があることも捉える。



高学年：文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。

文の中での語句の係り方	主語と述語との関係に着目して文の構成をみて、単文・重文・複文(※1)に分ける。
語順	日本語の語順の特徴を理解する。
文と文との接続の関係	文と文との関係を捉え、接続する語句を適切に選択する。
話や文章の構成や展開	「始め-中-終わり」「序論-本論-結論」「頭括型、尾括型、双括型」(※2)等の話や文章の組み立てや説明などにおける論の進め方について理解する。
話や文章の種類とその特徴	紹介、提案、推薦、案内等、日常生活で触れることが多い話や文章の種類とその特徴を理解する。

文の特徴を理解することが大切です。
 例えば、「提案」は、その内容が実現可能で具体的なものであることが求められます。また、推薦は、推薦する理由を明確にすることが求められます。

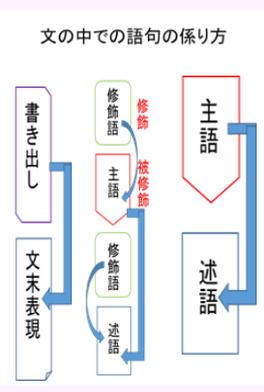


(※1)

単文	1つの主語に対し1つの述語 (例)わたしは、小学生です。
重文	主語と述語が1つの文章に2つ以上入っているもの (例)私は小学生で、兄は中学生です。
複文	主語と述語からなる文の構成部分にさらに主語と述語の関係が認められるもの (例)時には、みんなが使っていた一輪車がかたづけられずに残されています。

(※2)

頭括型	結論-理由 (例)一人ひとりが責任をもって使ったものをかたづけることが大切だ。なぜなら、きちんとかたづけられれば、気持ちよく遊べるからだ。
尾括型	理由-結論 (例)きちんとかたづけられれば、気持ちよく遊べる。だから、一人ひとりが責任をもってかたづけることが大切だ。
双括型	結論-理由-結論 (例)一人ひとりが責任をもって使ったものをかたづけることが大切だ。なぜなら、きちんとかたづけられれば、気持ちよく遊べるからだ。そのためにも、一人ひとりが責任をもってかたづけることが大切だ。



「文の中での語句の係り方」とは、左の図のように、主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係に加え、文の書き出しと文末表現の関係などを含めた文の中の語句と語句の係り受けのことです。



(例)

○学習指導に当たって（取組の例）

- ・物語の叙述を解釈する際に**修飾語に着目して話し合う活動**を取り入れる。
 さらに、(例)のように、**修飾語が離れた語句を修飾する場合がある**ことを理解できるように指導する。
- ・書いた文章を推敲する際に**主語と述語が適切に照応しているかに着目して読み返したり、アドバイスし合ったりする活動**を取り入れる。
- ・**作文指導等を通して**主語、述語、修飾語をおさえ、正しい文章構成を認識できるように継続的に指導する。
- ・言語事項に関するガッテンプリント 1201 から 1219 を活用して復習をする。
 [1209 (主語・述語)、1217①② (修飾語)]

弟とわたしは、夏休みに海で泳ぎました。

「海で」はどの言葉を詳しく表しているか。

課題の改善に向けた取組③

3三

漢字のもつ意味を考えながら、既習の漢字を、文や文章の中で正しく使うことができるよう指導する。

読みは、「当該学年に担当されている漢字の音読みや訓読みができるようにすること」とされています。

書きの指導は、「2 学年間という時間をかけて、確実に書き、使えるようにすること」とされています。

前学年で学習する漢字が確実に身につけているか確認することが大切です。



第6 学年に担当された漢字の書きについては、当該学年において漸次書き、**文や文章の中で使う**とともに、中学校の第2 学年までの間で確実に身につけ、使えるようにすることとされています。

低学年・漢字の字形と具体的な事物（事実や絵など）を結び付けるなどの指導を工夫する。
・漢字単独の読みだけではなく、**文や文章の中で漢字を読むことを大切に**し、**文脈の中での意味と結び付けていく**。

中学年・新出漢字の学習の際には、漢字辞典を使い、**漢字の読みや意味などを調べる活動**を取り入れる。
・漢字のもつ意味を考えながら正しく使ったり、当該学年の前の学年までに学習した漢字を意識して使ったりする習慣を付けるように指導する。

高学年・「収める」、「納める」、「修める」、「治める」などの**同音異義語に注意**するなど、**考えて使う習慣が身に付くよう**指導する。
・書いた文章を互いに読み合い、漢字のもつ意味を考えながら正しく使用しているかどうかを話し合う。

○学習指導に当たって

- ・「学年別漢字配当表」において当該学年より後の学年に担当されている漢字や、掲げられている漢字以外の漢字についても、振り仮名付きで提示し、**読む機会を増やし**、その漢字に慣れるようにする。
- ・朝学習や補充学習の際、「ガッテンプリント」などを活用し、漢字の学習を進める。さらに、学習状況に応じて「ガッテンプリント」などを配付し、**繰り返し**家庭学習で取り組む。（100 から 605・1201 から 1219）
- ・「10 回練習しましょう」等の一律の指導ではなく、**練習する回数を子どもたち自身が考えたり、選択したりする**など、**個に応じた指導**をする。
- ・単元の中で、効果的に ICT の活用を位置付け、従来の「書く」指導と、ICT を活用した指導とを併用していく。



漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるように指導したり、相手や目的に応じて適切に漢字が用いられているかどうかを確認することができるように指導したりする。

〈取組の例〉

1 平仮名で書かれた、次の「お知らせ」の文章を、学習した漢字を用いて書き直す。

平仮名で書かれた「お知らせ」	第6学年児童が書き直した「お知らせ」
<p>4ねんせいのみなさんへ ほうそういいんかい</p> <p>いいんかいかつどうのたいけんのおしらせ</p> <p>1 にちじ 2がつ19にち(げつ)～2がつ22にち(もく) 10じ25ふんから10じ45ふんまで</p> <p>2 しゅうごうばしょ たもくてきルーム</p> <p>3 さんかたいしゅう 4ねんせいのきぼうしや</p> <p>4 もうしこみぎげんともうしこみほうほう ・2がつ14にち(すい)までにもうしこんでください。 ・じむしつまえにもうしこみようしとはこがおいであります。よろしにクラスとなまえをかいて、はこにいれ てください。</p> <p>5 おねがい ・とうじつは、ぜんいんがたいけんでできるように、ほう そういいんのしじにしたがってください。</p>	<p>4年生のみなさんへ 放送委員会</p> <p>委員会活動の体験のお知らせ</p> <p>1 日時 2月19日(月)～2月22日(木) 10時25分から10時45分まで</p> <p>2 集合場所 多目的ルーム</p> <p>3 参加対象 4年生の希望者</p> <p>4 申し込み期限と申し込み方法 ・2月14日(水)までに申しこんでください。 ・事務室前に申し込み用紙と箱が置いてあります。 用紙にクラスと名前を書いて、箱に入れてください。</p> <p>5 お願い ・当日は、全員が体験できるように、放送委員の指 示にしたがってください。</p>

2 二つの「お知らせ」の文章を比較し適切に漢字を用いることのよさについて話し合う。



3 日常生活を振り返り、漢字を用いて書く時に気を付けたいことなどを考える。
○自分の考えを相手に分かりやすく伝えるために、学習した漢字を使って書くという意識を高める。

〈指導する際の留意点〉

●漢字の読み書きを繰り返し練習することだけでなく、児童がノートなど自分の書いた文や文章の中で漢字を正しく使うことができているか振り返ることができるようにする。

- 1 同音異義語を教科書などから探す。
- 2 同音異義語の意味や使い方を整理して、カードにまとめる。

【収める】
「きちんと中に入れる。よい結果をあげる。」
(勝利を収める)

【治める】
「政治を行う。」
(領地を治める)

【納める】
「お金や物を、受けとる人にわたす。きちんと入れてしまふ。」
(税金を納める)

【器官】
「生物の体の中でいろいろな働きを分担している部分。」
(消化器官)

【期間】
「あるきまつたときから、別の決まつたときまでの間。」
(期間を延長する)

【機関】
「ある仕事をするためにつくれたしくみ。」
(交通機関)

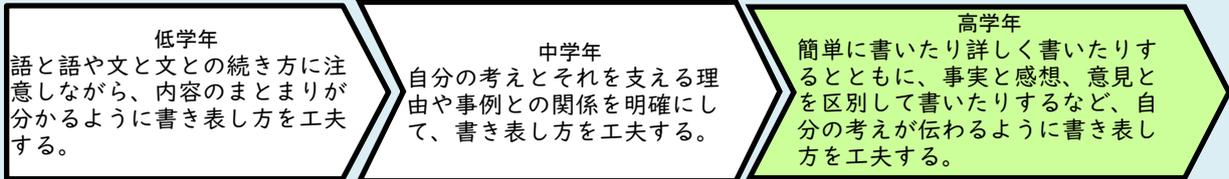
〈指導する際の留意点〉
●作成したカードを掲示したり、まとめてとじておいたりするなど、必要なときには、いつでも使えるような言語環境を作る。

3 作成したカードをもとに、グループで問題を出し合い、同音異義語の使い分けについて考える。

筋道の通った文章となるように文章全体の構成や展開を考えたり、目的や意図に応じて書き表し方を工夫したりしながら、自分の考えを主張する文章を書くことができるように指導する。

○学習指導に当たって（取組の例）

- ・課題改善のためには、[B書くこと]の(1)の「考えの形成・記述」に関する指導事項のウについて、低学年から意識して指導していくことが大切である。



低学年：語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。

⇒事柄の順序に沿いながら、文や文章の中で、語と語及び文と文との続き方を考えて記述し、自分の考えを一層明確にしていくこと。

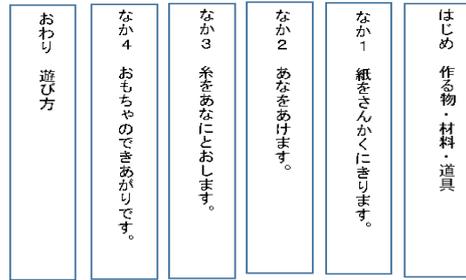
語と語や文と文との続き方に注意するとは、一文の意味が明確になるように続き方を考えるとともに、離れたところにある語と語や文と文とのつながりについても考えて記述することです。

内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫するとは、順序に沿って考えた構成を基に、内容が混在しないようにまとまりを明確にした記述の仕方を工夫することです。



(例)1年生にうごくおもちゃのせつめい書をプレゼントしよう

- ①教材文を読み、説明書の書き方を確かめる。
- ②自分のおもちゃについて、「はじめの部分」「作り方」「遊び方」などをカードに書く。
- ③カードを並べ替えて、説明書の構成を考える。
- ④「作り方」について、作る順番を意識して、順序を表す語（「まず」「つぎに」「さいごに」「これで」等）を使って書く。
- ⑤書いた説明書を読み返し、付け足したり、書き直したりする。



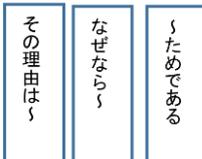
時間や事柄の順序を表す語を適切に用いる。

内容のまとまりが明確になっているか確かめながら書く。

中学年：自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。

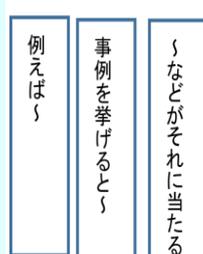
⇒自分の考えとそれを支える理由や事例といった関係性が明確になるように記述することに重点を置いている。

理由を記述する際



「理由」を記述する際には、「なぜなら」「その理由は」「〜ためである。」といった、理由を示すことを明確にする表現を用いることが大切です。

事例を記述する際



「事例」を記述する際には、「例えば〜」、「事例を挙げると」、「〜などがそれに当たる」などの表現を明確に用いることが大切です。



言語活動例

調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。

- ・クラブ活動リーフレットでクラブのよさを伝えよう
- ・調べて考えてパンフレットで報告しよう 等

高学年：目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、**事実と感想、意見とを区別して書いたりする**など、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
 ⇒目的や意図に応じて簡単に書く部分と詳しく書く部分を決めたり、**事実と感想、意見とを区別して書いたりする**など、**工夫することに重点**を置いている。

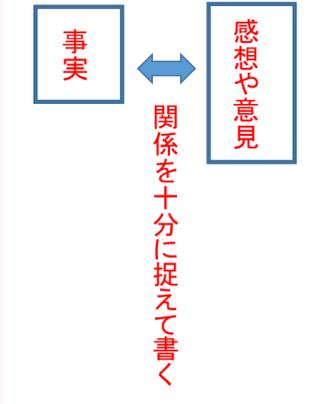


目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするのは、書く目的や意図を明確にした上で、詳しく書く必要がある場合や簡単に書いた方が効果的である場合などを判断しながら書き表し方を工夫することです。

「構成や展開を考える」過程において、文章のどこを詳しく、どこを簡単に書けば効果的かをあらかじめ検討しておくことも考えられます。

事実と感想、意見とを区別して書いたりするには、事実を客観的に書くとともに、事実と感想や意見との関係を十分捉えて書くことが重要です。
 自分の考えたことなどが客観的な事象に裏付けられたものになっているかどうかを振り返り、自分の考えをより深めていくことにつながるからです。

事実と感想、意見とを明確に区別して書くためには、**文末表現に注意することも重要**です。



取組の例

- ・書く目的や意図を明確にする。
- ・序論の部分は簡潔に書いたほうが効果的であること、本論で事例や根拠を書く場合には、できるだけ詳しく具体的に書くほうが分かりやすいということなどを指導する。
- ・事実と感想、意見とを区別して書くために、文末表現に注意するような指導をする。
- ・引用する場合は、引用する部分や分量が、自分の考えの根拠や具体例として適切かなどを考える時間をつくる。
- ・根拠や事例として示す事実が、本当に図解したり表やグラフで示したりした方が分かりやすいのかを検討する時間をつくる。
- ・引用の際には必ず出典を明記することを指導する。
- ・文章全体の構成や展開を考える際に、「構成表」を作成する。
- ・自分の考え、理由、事例などを色分けするなどして、視覚的に事実と考えが区別されていることの分かりやすさを確認するために、ICTを活用する。



【ICT 活用例】

終わり	中	はじめ
自分の主張 利用できる。 ①一人一人が責任をもつてかたづけられることが大切だと 考える。	西田さんの話 ・時間が足りなくなっていること ・はきそうじやみそじまで手が回らなくなること ・きれいにしようができてくなくて困っていること 自分の主張 使った人がかたづけなければ、次に使う人は気持ちよく 利用できない。 ②一人一人が責任をもつてかたづけられることが大切だと 考える。	自分の主張 ①一人一人が責任をもつて使った物をかたづけられることが 大切だ。 理由と事例 きちんとかたづけられず、気持ちよく遊べるから。 ・休み時間後の校庭にボールが転がっていること ・みんなが使っていた一輪車が残されていること ・一輪車や竹馬がすみの方に積み重ねられていること 異なる立場に向けた考え たが当の人がかたづけなければよいという考えもあるが、使った 人がかたづけられるべきだ。 西田さんの話 ・時間が足りなくなっていること ・はきそうじやみそじまで手が回らなくなること ・きれいにしようができてくなくて困っていること
主張	事例	主張

【構成表例】

以下の集計値／グラフは、5月27日に実施した調査の結果を集計した値である。

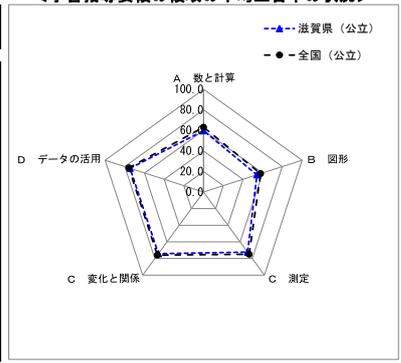
集計結果

対象学校数	滋賀県（公立）	全国（公立）	対象児童数	滋賀県（公立）	全国（公立）
	220	18,854		12,947	994,101

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）	
			滋賀県（公立）	全国（公立）
全体				
		16	68	70.2
学習指導要領の領域	A 数と計算	4	59.7	63.1
	B 図形	3	54.2	57.9
	C 測定	3	72.4	74.8
	C 変化と関係	3	74.2	75.9
	D データの活用	5	74.7	76.0
評価の観点	知識・技能	9	72.2	74.1
	思考・判断・表現	7	62.3	65.1
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	6	75.0	76.0
	短答式	6	73.3	75.8
	記述式	4	49.0	53.0

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点		問題形式			正答率（%）		無解答率（%）	
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式	滋賀県（公立）	全国（公立）	滋賀県（公立）	全国（公立）
1 (1)	二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く	二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる	1 (2) 7 (1) 3 (2) 7 (7) ※		2 (1) 7 (7)				○		○	58.0	62.5	2.3	1.7	
1 (2)	500mを歩くのに7分かかるとを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる			5 (1) 4 (7) 5 (2) 4 (7)			○		○	85.9	86.7	2.1	1.7		
1 (3)	⑦と⑧の二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ	速さを求める除法の式と商の意味を理解している			5 (2) 7 (7)			○		○	54.5	55.8	1.9	1.4		
1 (4)	午後1時35分から50分後の時刻を書く	条件に合う時刻を求めることができる			3 (2) 7 (4)			○		○	88.2	89.2	0.9	0.7		
1 (5)	分速540mのバスが2700mを進むのにかかる時間を求める式を書く	速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる			5 (2) 7 (7)			○		○	82.3	85.1	2.0	1.5		
2 (1)	直角三角形の面積を求める式と答えを書く	三角形の面積の求め方について理解している	5 (3) 7 (7)					○		○	49.1	55.1	2.2	1.6		
2 (2)	直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ	複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比較することができる	5 (3) 7 (7)	1 (1) 7 (4)				○		○	71.0	72.5	1.3	1.0		
2 (3)	二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く	複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる	5 (3) 7 (7) ※					○		○	42.4	46.0	5.9	4.6		
3 (1)	6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、数量を読み取ることができる			3 (1) 7 (4)			○		○	95.5	95.8	0.4	0.4		
3 (2)	学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる			3 (1) 7 (4)			○		○	90.2	90.7	0.5	0.4		
3 (3)	「114」は二次元の表のどこに入るかを選ぶ	データを二次元の表に分類整理することができる			4 (1) 7 (7)			○		○	65.8	67.5	2.2	1.7		
3 (4)	帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く	帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる			5 (1) 7 (7) ※			○		○	48.8	52.0	12.3	10.3		
3 (5)	5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために、適切なデータを選ぶ	集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる			5 (1) 7 (7) ※			○		○	73.1	73.9	1.7	1.3		
4 (1)	余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く	示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる	3 (4) 7 (7) 7 (4)					○		○	81.3	83.0	2.1	1.7		
4 (2)	8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人数分のジュースの量を求める式と答えを書く	商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる	4 (4) 7 (2)					○		○	52.8	55.5	2.4	2.0		
4 (3)	30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量を示された小数に当たる理由を記述できる	4 (4) 7 (7) ※					○		○	46.8	51.5	13.3	10.3		

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等をみるために用いる知識及び技能を示している。

【小学校 算数】の調査問題の結果から

■設問ごとの顕著な課題

- ・ **2** (1) 「三角形の面積の求め方の意味についての理解」 → **取組①**

図1のような直角三角形があります。

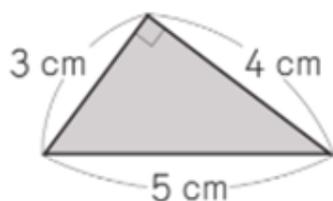


図1

- (1) 図1の直角三角形の面積は何 cm^2 ですか。

求める式と答えを書きましょう。

正答 $3 \times 4 \div 2 = 6$

(乗数と被乗数を入れ替えた式なども許容する)

正答率 49.1% (全国 55.1%)

誤答

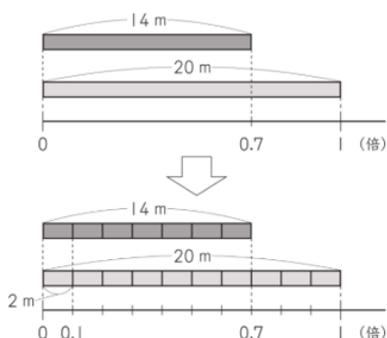
- ・ 三角形の面積の公式についての理解が不十分なもの 23.7%

例: $3 \times 4 \times 5$, $3 \times 4 \times 5 \div 2$

- ・ 直角三角形の底辺や高さの関係についての理解が不十分なもの 6.1%

例: $5 \times 3 \div 2$, $5 \times 4 \div 2$

- ・ **4** (3) 「小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述する」 → **取組②**



【ゆうまさんの説明】

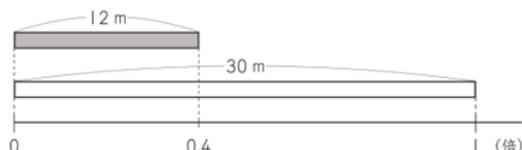


ゆうま

20mを1としたとき、0.1にあたる長さは2mです。
14mは、2mの7つ分になるので、20mを1としたときの0.7にあたります。

30mを1としたときに12mが0.4にあたるわけを、【ゆうまさんの説明】と同じように、0.1にあたる長さがわかるようにして、言葉や数を使って書きましょう。

※ 必要ならば、下の図を使って考えてもかまいません。



正答例

30mを1としたとき、0.1にあたる長さは3mです。

12mは、3mの4つ分になるので、30mを1としたときの0.4にあたります。

正答率 46.8% (全国 51.5%)

誤答

- ・ 30mを1としたとき、0.1に当たる長さが3mになることは記述できているが、12mは3mの幾つ分に当たるかについては記述できていない。

10.7%

例: 30mを1としたとき、0.1にあたる長さは3mです。だから、0.4にあたります。

課題の改善に向けた取組①

2 (1)

- ・ 図形を構成する要素などに着目し、面積の求め方について筋道を立てて説明できるように指導する。

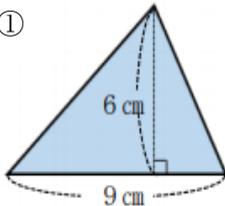
○学習指導に当たって1 (取組の例)

- ・ 公式を用いる上で不要な辺の長さを示した図などを提示し、求積のために必要な情報を選び出して面積を求める場面を設定する。

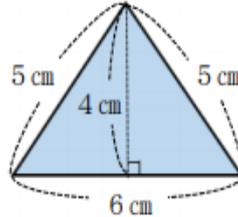
例

(問題) 次の三角形の面積を求めましょう。

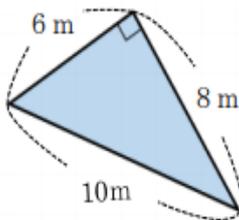
①



②



③



④



①底辺と高さのみ数値が提示されている問題

②底辺と高さ以外の数値も提示されている問題

③底辺と高さ以外の数値も提示され、傾いた位置に置かれた問題

【令和3年度出題類似問題】

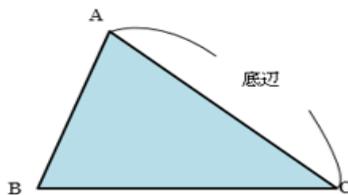
④面積を求めるために必要な辺の長さを自分で見つける問題

出題の仕方、児童がどこでつまづいているかを見取ることができます。指導の際には、底辺と高さに着目できるように、底辺と高さに印をつけるなど、底辺と高さの位置関係を意識して、必要な情報を取り出せるようにすることが大切です。

- ・ 条件を変更して面積を求める場面を設定する。

例

(問題) 下の三角形で、辺 AC を底辺としたときの、高さを表す直線をかきましょう。また、底辺と高さをはかって、面積を求めましょう。



問題を解き終わったら・・・

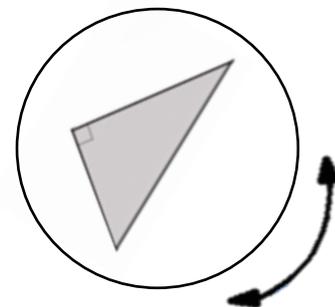


辺 AB や辺 BC を底辺にした場合についても、面積の求め方を説明してみましょう。

例

【授業の場面で・・・】

- ・ 紙皿 (円形の台紙) の上に図形をのせ、回転させて図形を観察する。



「1 辺を底辺と決めるときに、それに対応する高さがどこになるのか。」を考えるために、1 つの三角形 ABC を用いて、辺 AC や辺 AB、辺 BC を底辺としたときの高さはそれぞれどこになるかを考えたり、図形を回転させて観察する活動をしたりすることで、底辺と高さの関係について理解を深められるようにします。

○学習指導に当たって2（取組の例）

5年生で学習する「四角形と三角形の面積」に関連する学習を1年生から意識して積み重ねる。

【「面積」についての学習の関連】



例 【1年生：かたちづくり】

(もんだい) いろいろたをつかって、いろいろなかたちをつくりましょう。



作った形を見て気付いたことを言いましょう。色板の数はどうなったかな？



も も
いろいろたのかずはおなじ。

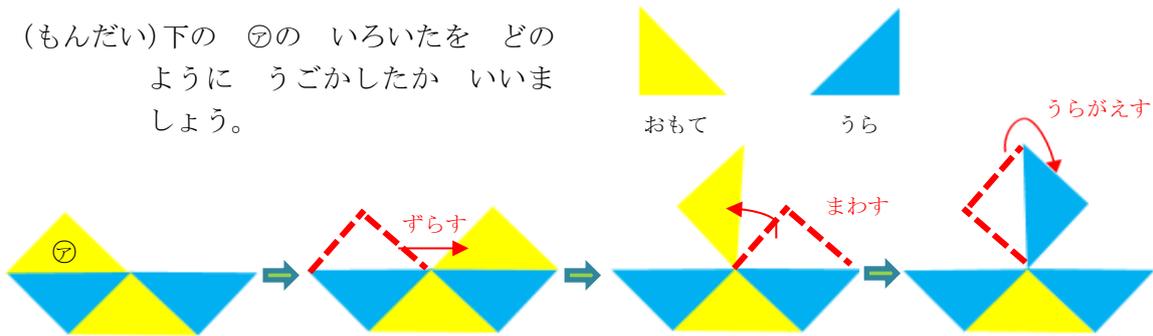
が2まいで になる。
が2つで になる。



☞ 広さにつながる見方

☞ 三角形、正方形、長方形の素地

(もんだい) 下の㊦のいろいろたをどのようにうごかしたかいいみましょう。



☞ 「ずらす」「まわす」「うらがえす」等の操作活動 →→→ 5年生の「面積」

身の回りのものや色板などを使って、身の回りにある具体物の形を作ったり、作ったものから逆に具体物を創造したりする活動の中で、「かたち」の変化や「色板の数」などに着目する発問を行うことが、「広さ」の学習や「三角形や正方形、長方形」の学習につながります。また、図形を「ずらす」「まわす」「裏返す」などの操作は、5年生の平行四辺形や三角形などの面積の公式を考える場面での倍積変形や等積変形の操作につながります。

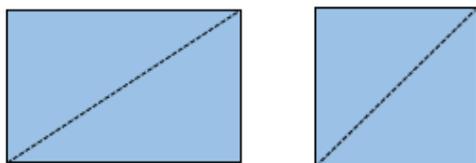
例 【2年生：三角形と四角形】

(もんだい) 長方形や正方形の紙を下のように切りましょう。

どのような三角形ができますか。



できた三角形の形の特徴を調べてみましょう。かどの形は、どんな形かな？



☞ 直角三角形の定義

大きさが同じ三角形が2つできた。

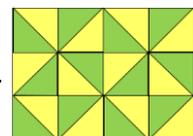


かどが直角になっている。



(もようづくり)

直角三角形を組み合わせると・・・

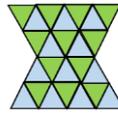
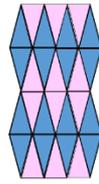


辺、頂点、直角に着目できるような発問を行い、直角三角形の定義をおさえられるようにします。

例

【3年生：三角形と角】

- 二等辺三角形や正三角形をかく。
- 二等辺三角形と正三角形をかくて切り取り、3つの角の大きさを比べる。
- 形も大きさも同じ二等辺三角形や正三角形を、すき間なくならべる。



や が
続くように見えるよ。

こんな形が見えてくるよ。

二等辺三角形、正三角形の定義と性質 →→→ 5年生の「面積」

辺の長さに着目して、二等辺三角形、正三角形等を作図する方法を考えて作図する活動や二等辺三角形、正三角形を切り取り、それらを折って重ねたり敷き詰めたりする活動を行います。その中で、二等辺三角形や正三角形の性質をおさえたり、組み合わせることができる形に気付けるようにしたりします。

例

【4年生：垂直・平行と四角形】

(問題) 次の図の2本の平行な直線に交わるように、2本の直線を書き加えて、台形と平行四辺形をかきましょう。



なぜそのようにかくと台形や平行四辺形がかけられるかを説明しましょう。

台形

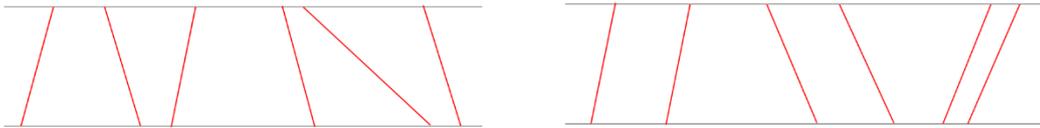


台形は、向かい合った2組の辺が平行な四角形だから・・・

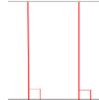
平行四辺形



平行四辺形は、向かい合った2組の辺が平行な四角形だから・・・



(問題) 平行四辺形と同じようにして、長方形をかきましょう。 長方形



平行、台形、平行四辺形の定義 →→→ 5年生の「面積」

平行、垂直といった2直線の位置関係に着目して、平行四辺形、台形等の作図の仕方考えることで様々な四角形の特徴に気付くようにすることや、平行線間の距離は等しいことを用いて長方形を作図する経験は、5年生の平行四辺形や三角形の高さ（高さが底辺の延長線上にある場合）の理解につながっています。



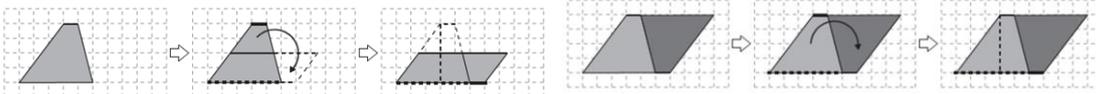
例

【5年生】四角形と三角形の面積

「台形の面積」の学習場面



組み合わせてできた平行四辺形の底辺と高さは、もとの台形のどこの辺や長さに対応していますか？



平行四辺形の底辺は、元の台形の上の辺の長さとの下の辺の長さを含めた長さになっています。



平行四辺形の底辺は、元の台形の上の辺の長さとの下の辺の長さを含めた長さになっています。



平行四辺形の高さは、元の台形の高さの半分になっています。



平行四辺形の面積は、元の台形の2倍の面積になっています。元の台形の面積は、平行四辺形の面積の半分になっています。

$(\text{上底} + \text{下底}) \times (\text{高さ}) \div 2$

$(\text{上底} + \text{下底}) \times \text{高さ} \div 2$

平行四辺形の面積

台形の面積の公式を導くために、三角形や平行四辺形の求積と同様に、既習内容を活用して等積変形をしたり、合同な図形を組み合わせて平行四辺形に変形したりします。その際に、組み合わせてできた平行四辺形の底辺の高さと、元の図形の辺や高さとの対応に着目して説明する活動を行います。

・小数を用いた倍の意味について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して理解できるように指導する。

例 【4年生】小数と整数のかけ算・わり算

「小数と倍」の学習場面

○学習指導に当たって1 (取組の例)

例えば、4 (3) の14mは20mの何倍かを求める問題を用いて、倍について小数でも整数でも、基準量を1としたときに比較量が幾つに当たるかという意味で捉えることができるように、実際に図をかいたり説明したりする場面を設定する。

(3) 14 mのテープと20 mのテープがあります。
こはるさんたちは、14 mは20 mの何倍かについて考えています。

こはる $14 \div 20 = 0.7$ で、0.7倍です。0.7倍というのは、20 mを1としたとき、14 mが0.7にあたることを表していましたね。

れんと 20 m を1としたとき、14 mが本当に0.7にあたるのかな。

れんとさんの話を聞いて、ゆうまさんは、20 mを1としたときに14 mが0.7にあたるわけについて、20 mを10等分した1つ分の長さが0.1にあたることをもとにして考え、下のように図をかいて説明しました。

【ゆうまさんの説明】
20 mを1としたとき、0.1にあたる長さは2 mです。
14 mは、2 mの7つ分になるので、20 mを1としたときの0.7にあたります。

実際にノート等のマス目に合わせて図をかきましょう。

かいた図と関連付けながら言葉や数を用いて説明しましょう。

○学習指導に当たって2 (取組の例)

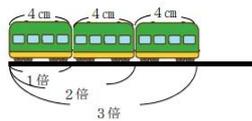
「倍・割合」に関するテープ図や数直線図などの意味やかき方の指導を系統的に行う。

例

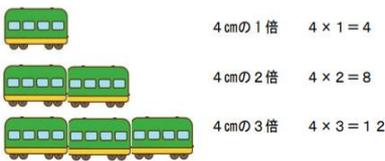
低学年

中学年

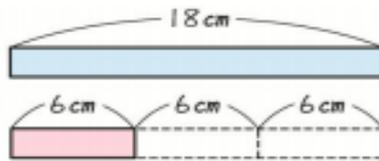
【2年生】かけ算 (倍の素地)



4 cmの1倍、2倍、3倍の長さをもとめるときは、かけ算を使うことができます。



【3年生】わり算 (倍のテープ図の素地)

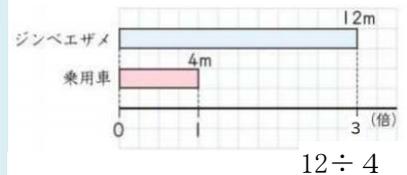


【3年生】かけ算の筆算

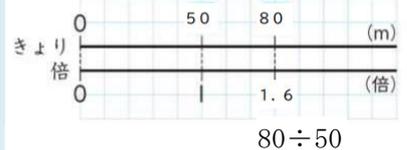
◎のテープの長さは5 cmです。
◎のテープの長さは、◎のテープの長さの3倍です。
◎のテープの長さは、◎のテープの長さの2倍です。



【4年生】わり算の筆算

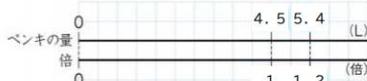


【4年生】小数と整数のかけ算わり算 (倍の数直線)

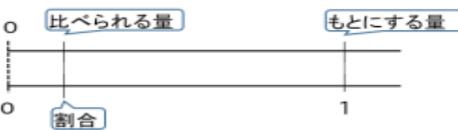


高学年

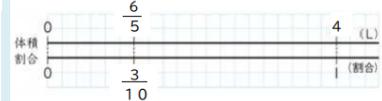
【5年生】小数のわり算



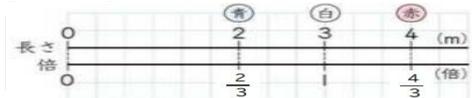
【5年生】割合 (割合の意味)



【6年生】分数のわり算



【5年生】わり算と分数 (倍の数直線)



低学年から繰り返し、図をかき活動を取り入れます。
児童が、テープ図や数直線図などのかきことによって数量の関係がわかることを実感できるようにすることが大切です。

・以下の集計値/グラフは、5月27日に実施した調査の結果を集計した値である。

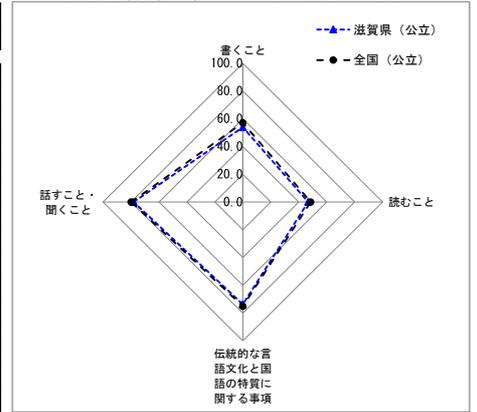
集計結果

対象学校数	滋賀県 (公立)	全国 (公立)	対象生徒数	滋賀県 (公立)	全国 (公立)
	102	9,319		12,107	903,157

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			滋賀県 (公立)	全国 (公立)	
全体			14	63	64.6
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	78.1	79.8	
	書くこと	3	53.9	57.1	
	読むこと	4	46.7	48.5	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	73.7	75.1	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	52.4	56.0	
	話す・聞く能力	3	78.1	79.8	
	書く能力	3	53.9	57.1	
	読む能力	4	46.7	48.5	
問題形式	言語についての知識・理解・技能	4	73.7	75.1	
	選択式	6	62.6	63.9	
	短答式	4	73.2	74.4	
	記述式	4	52.4	56.0	

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点			問題形式			正答率 (%)		無解答率 (%)		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	滋賀県 (公立)	全国 (公立)	滋賀県 (公立)
1一	話し合いでの司会の発言の役割について説明したものととして適切なものを選択する	話し合いの話題や方向を捉える	1オ				○				○			89.2	89.7	0.6	0.2
1二	話し合いでの発言について説明したものととして適切なものを選択する	質問の意図を捉える	1エ				○				○			91.6	92.5	0.6	0.2
1三	参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く	話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える	1オ				○	○				○		53.6	57.1	4.9	3.4
2一	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く	2エ				○				○			23.5	24.8	0.6	0.3
2二	意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く	書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える	2オ				○	○				○		70.5	74.5	12.3	8.5
3一	「呼吸のみこんだ」の意味として適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する			1ア				○		○			42.3	43.7	0.8	0.4
3二	「喝突してやる」と「とった」のそれぞれについて、誰の動作なのかを選択する	場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する			1ウ				○		○			56.8	58.7	0.8	0.4
3三	「反対の結果を呈出した」について、このことが分かる「黒」の様子を文章の中から抜き出す	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する			2イ				○			○		70.0	71.0	10.1	7.3
3四	「善輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ			1オ		○					○		17.7	20.5	31.4	24.1
4一①	漢字を読む (挿ばして)	文脈に即して漢字を正しく読む			2(1)ウ(7)					○		○		96.8	97.5	2.1	1.5
4一②	漢字を読む (詳細)				2(1)ウ(7)					○		○		88.5	88.8	2.8	2.3
4二	「随時」の意味として適切なものを選択する	事象や行為などを表す多様な語句について理解する			1(1)イ(9)					○	○			72.1	74.0	1.9	1.1
4三	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	相手や場に応じて敬語を適切に使う			2(1)イ(7)					○		○		37.3	40.3	2.6	1.7
4四	事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く			2ウ		○					○		67.9	71.9	14.1	9.7

【中学校 国語】の調査問題の結果から

■設問ごとの顕著な課題

- ・ **3四**の正答率は17.7%（全国比-2.8）である。引用することや、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことに課題が見られる。→取組①
- ・ **2一**の正答率は23.5%（全国比-1.3）である。推敲する場面において、語句や文の使い方、段落相互の関係について考えることに課題が見られる。→取組②

課題の改善に向けた取組①

3四

資料から必要な情報を引用したり、文章の内容を理解し自分の考えを形成したりできるように指導を工夫する。

○学習指導に当たって（取組の例）

- ・ 小学校での学習を踏まえ、引用に対する理解を深め、活用できるようにする。
 * 資料から必要な情報を見付け、実際に引用する学習を繰り返し行い、引用に対する理解を深める。
 * 学習のねらいや生徒の実態に応じて「ガッテンプリント（1140）」を活用する。
- ・ 「読むこと」の学習過程における資質・能力を、言語活動を通して育成する。
 * 第1学年「読むこと」で想定される言語活動例

読むことイ	・ 登場人物の相互関係を人物関係図で説明しよう。 ・ 登場人物の心情の変化をPOPで伝えよう。
読むことエ	・ 場面の展開や表現の効果を捉え、印象に残ったことを伝えよう。
読むことオ	・ 読んで理解したことを基に、作品の魅力を紹介しよう。

* 課題の解決に向けて、ノートや振り返りシートを見直す等、これまでに学んだことを想起する場面を設定し、活用できるようにする。

- ・ 「読み解く力」の視点を踏まえた授業を構想する。
 * 「読み解く力」の視点を踏まえた授業例は「調査問題の分析」（県教育委員会作成資料）参照
- ・ 学習に対する目的や見通しをもてるようにする。
 * 単元や本時の導入において、学習に取り組む目的を生徒が理解したり、どのように課題解決をするのか、学習計画を立てて見通しをもったりできるようにする。

課題の改善に向けた取組②

2一

読み手の立場に立ち、自分が書いた文章について捉え直し、分かりやすい文章に整えることができるように指導を工夫する。

○学習指導に当たって（取組の例）

- ・ 意見や根拠、具体例について理解を深めることができるようにする。
 ・ 意見や根拠、具体例について、言葉の意味を確認したり、自分の用いた根拠や具体例の適切さ、効果を確認めたりする学習活動を設定する。
- ・ 書く目的や相手を明確にして学習課題を設定する。
 ・ 例「地域の人に文化祭について案内する文章を書こう。」（何を、誰に、何のために書くのか）
- ・ 推敲する場面では、学習のねらいに応じて観点を明確にする。
 ・ 例「説明や具体例が自分の考えを明確に伝えるために機能しているか。」
- ・ 書いた文章を互いに読み合い、推敲の観点に従って助言し合うことを通して、自分の考えを広げたり深めたりし、自分の書く活動に生かす学習展開にする。
 ・ 付箋、文章作成ソフトのコメント機能等を活用し、互いに助言できるように工夫する。

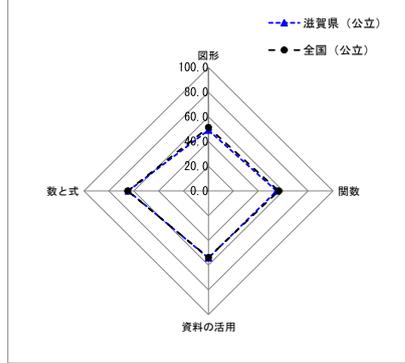
以下の集計値／グラフは、5月27日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	滋賀県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	滋賀県（公立）	全国（公立）
	102	9,316		12,129	903,253

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）	
			滋賀県（公立）	全国（公立）
全体				
学習指導要領の領域	数と式	5	64.5	64.9
	図形	4	49.2	51.4
	関数	3	54.7	56.4
	資料の活用	4	54.2	53.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0		
	数学的な見方や考え方	7	39.7	41.1
	数学的な技能	3	78.3	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	6	64.5	65.6
問題形式	選択式	2	52.4	52.4
	短答式	9	69.4	70.5
	記述式	5	34.1	35.0

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合は、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式		正答率（%）		無解答率（%）			
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	滋賀県（公立）	全国（公立）	滋賀県（公立）	全国（公立）	
1	$(5x + 6y) - (3x - 2y)$ を計算する	整式の加法と減法の計算ができる	2(1)ア												77.6	77.1	1.4	0.8
2	数量の関係を一元一次方程式で表す	具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる	1(3)ウ												73.5	71.3	7.9	7.6
3	中心角 60° の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ	扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している		1(2)ウ											67.4	68.1	0.6	0.3
4	経過した時間と影の長さの関係を、「…は…の関数である」という形で表現する	関数の意味を理解している			1(0)ア										45.0	48.0	11.5	9.3
5	反復横とびの記録の中央値を求める	与えられたデータから中央値を求めることができる			1(0)ア										83.7	84.5	1.5	1.0
6(1)	四角で囲んだ4つの数が12, 13, 17, 18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	2(0)イ,ウ												81.8	83.9	4.7	3.5
6(2)	四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成させる	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	2(0)イ,ウ												60.9	61.8	18.4	15.4
6(3)	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する	数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる	2(0)イ,ウ												28.6	30.3	34.5	29.9
7(1)	与えられた表やグラフから、砂の重さが75gのときに、砂が落ちきるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を求める	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる			1(0)ウ										92.4	93.5	3.0	2.0
7(2)	与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			1(0)エ,オ										26.8	27.7	29.2	24.7
8(1)	気温差が9℃以上12℃未満の階級の度数を書く	ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる			1(0)ア										84.3	83.0	4.9	4.2
8(2)	2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ	相対度数の必要性和意味を理解している			1(0)ア										37.5	36.8	1.6	1.0
8(3)	「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			1(0)イ										11.2	11.1	35.7	32.2
9(1)	四角形ABCEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になること理由を説明することができる			2(2)イ,ウ										43.0	44.3	5.0	3.6
9(2)	錯角が等しくなることについて、根拠となる直線FEと直線BCの関係を、記号を用いて表す	錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している			2(0)ア										60.6	64.3	18.5	14.2
9(3)	$\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでもいえることを書く	ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる			2(0)ア										25.8	28.8	34.9	28.7

【中学校 数学】の調査問題の結果から

■設問ごとの顕著な課題

- ・**3**「中心角 60° の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ」問題の正答率は 67.4%（全国比-0.7）である。「扇形の中心角と弧の長さや面積との関係についての理解」に課題が見られる。→**取組②**
- ・**4**「…は…の関数であるという形で表現する」問題の正答率は 45.0%（全国比-3.0）である。「関数の意味の理解」に課題が見られる。→**取組②**
- ・**9**(3)「 $\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでもいえることを書く」問題の正答率は 25.8%（全国比-3.0）である。「ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現すること」に課題が見られる。→**取組①**

課題の改善に向けた取組①

9(3)

「辺や角などについていつでも成り立つ性質を見だし、それを数学的に表現する活動」を充実する。

「調査問題」令和3年度**9**や令和2年度**7**等の活用

○学習指導に当たって（取組の例）

- 1 観察、操作や実験などを通して、平行線や角の性質を理解する機会を設ける。
- 2 図形の性質や平行線の性質に基づいて、図形の性質が成り立つ理由を検討する場面を設定する。
- 3 条件を変えることで、新たな問題の発見を生徒に促し、見いだした事柄を説明する等の活動を設ける。

新たな知識の獲得や認識の深化を目指す

課題の改善に向けた取組②

3 **4**

「円と扇形との比較を通して、扇形の特徴を的確に捉える活動」や、「関数の意味を理解するために、二つの数量について変化や対応の様子に着目してその関係を的確に捉える活動」を充実する。「調査問題」令和3年度**3**や**4**等の活用

○学習指導に当たって（取組の例）

- ・円を折ったり、切ったりしてできた扇形ともとの円を比べる活動を行うなど、観察や操作、実験を通して、扇形と円を関連付けて捉える場面を設ける。
- ・日常的な事象の中にある二つの数量の変化や対応の様子を調べ、それらの関係を見いだす活動を通して、関数の意味を理解できる指導を行う。
- ・「概念の理解」を意識した発問をする。

例1 「扇形の弧の長さを求めるには半径の長さと何が必要ですか」という発問から、「扇形の面積や弧の長さを求めるのに、なぜ中心角が必要ですか」や「中心角の大きさと弧の長さにはどのような関係がありますか」等の発問をし、さらに「扇形とはどのような図形ですか」と発問することで図形概念の理解を進める。

例2 「 y は x の関数であるとはどういうことですか」という発問から、「問題の二つの数量の関係は関数であるといえますか」や「身の回りで関数関係である事象にはどのようなことがありますか」等の発問をし、さらに「関数とは何ですか」と発問することで関数概念の理解を進める。